

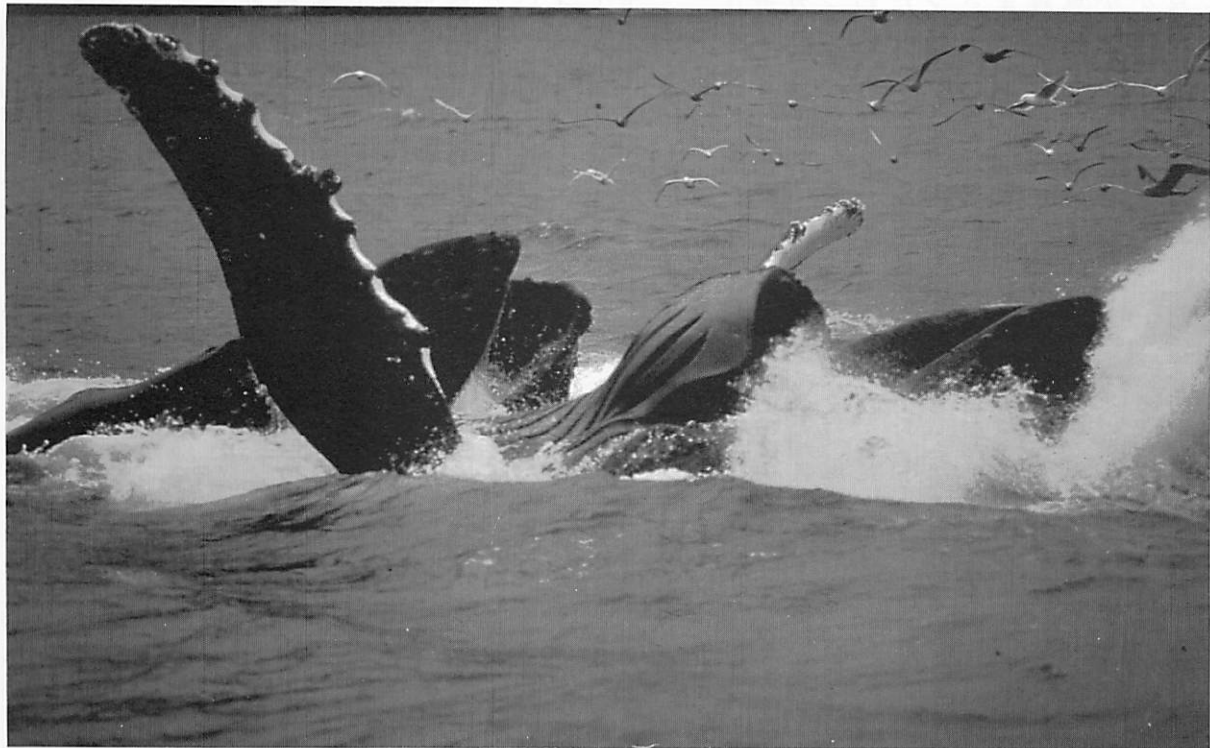


Megaptera

発行；小笠原ホエールウォッチング協会
(OWA)

東京都小笠原村父島字西町
04998-2-3215
04998-2-3500 (FAX)

メガプテラ=ギリシャ語で「大きなヒレ」



バブルネットフイーディング

写真・望月昭伸

文・友松こずえ

私は望月カメラマン等と九一年と九二年の九月、アラスカに行ってきた。目的はもちろん、ザトウクジラのフイーディングを見る事です。望月カメラマンはクジラにはついていないのですが、九一年も大当たりでした。

一頭で餌を捕る若いクジラにも出会いました。彼は驚くほど人なつこくて大きく口を開いて、ごろんごろんと寝返りをうつように、背泳ぎや横泳ぎで餌を食べ続け、何度もボートの下をくぐり抜けました。餌は、クリルと呼ばれる小さな甲殻類。海は鏡のような穏やかな風で、のんびりと餌を食べる彼の満足感が私たちにも伝わってくるようでした。

私たちは、シトカという町でボートをチャーターし、ホエールウォッチングのメッカ・フレデリック湾をめざして出発しました。

二日目、ボートの前で幾つもプロローが上がるのを発見。五、六頭はいる。鳥山も立っている。と、思うまもなく真っ黒な巨大な塊が、東になってドワーツと海面から踊りだしてきた!!

ものすごい水しぶき! バブルネットフイーディングだ!! なんとという迫力! クジラ達は、ボートにおかまいなしにあちちが上がったりこちちに上がった。フイーディングを繰り返す。その度に追われた魚を狙って、カモメの群れが狂ったようにつっこんでゆく。ボートの上の私たちもカモメに劣らず狂乱状態に陥りました。

さて、九二年。船が出たその日の夕方、早くも私たちは、シャチの群れが親子のザトウクジラを追いかけているという、衝撃的なシーンに遭遇する事になりました。五、六頭のシャチの群れが、親子を丸く取り囲むように泳いでいます。はらはらしながら見ていると、突然ボートのすぐ横に母クジラが浮上し、ベダンクルスラップをしました。それと呼応するように、ボートの前方にシャチの群れが浮上し、ボートの頭が高く、高くジャンプしました。まるでショーのようで、お腹の下側の美しい白と黒の模様がはつきりと見えました。それを最後に、クジラとシャチの群れは離ればなれになって行きました。

アラスカのクジラの大きさ!! はちきれんばかりに太って、皮膚もつやつやとしています。私たちは、そのとき初めて、小笠原で会うクジラ達がいかに痩せているかに気がつきました。可愛そうに、長旅と長い絶食、それに過酷な繁殖行動のために、ずいぶんと消耗しているのでしょう。

これがさい先の良いスタートかと思っただけですが、反対で、この海域にシャチがいるためか、とうとう最後までフイーディングをしている大きな群れに出会う事は出来ませんでした。二、三頭の群れはどこにでもいて、岸沿いで静かにフイーディングしている群れもいたのですが、やはり、アラスカでバブルネットフイーディングを見る事は、小笠原でフイーディングポッドを見る事と同じくらいラッキーな事なのだろうと、大いに納得したわけです。

その群れは、三日間フイーディングを続けていましたが、海が静かなときはウィーン、ウィーンという不思議な鳴き声が聞こえました。鳴き声は、まわりの海面全体から聞こえてきました。おそらく餌を追うときに出す声でしょう、小笠原で聞く「歌」とは全く違うものでした。